

口唇症状と頭痛を伴う皮膚症状に対して治療を続けた成人アトピーの経過 (40 歳)

症例 ID：001-40-KA4 | 記録日：2017 年 1 月 13 日

1. 診断・治療前経過

幼少期から皮膚トラブルがあり、成人後も保湿剤とステロイドを使用していました。口唇の不快感に対して医療機関でステロイドを処方され、約 1 か月使用しました。

症状が続いたため友人の勧めで松本医院を受診し、皮膚症状と頭痛に対する治療を開始しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	幼少期以降の皮膚症状に外用ステロイドを使用し、口唇にも約 1 か月使用しました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	断続的な使用歴があり、口唇には約 1 か月使用しました。
中止時期	松本医院受診前に中止しました。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
幼少期～成人期	来院前	皮膚トラブルに対して保湿剤とステロイドを使用していました。
受診前約 1 か月	来院前	口唇の不快感に対してステロイドを使用しました。
約 2 年前	治療開始	松本医院を受診し、皮膚症状と頭痛の治療を開始しました。
治療中	症状の波	皮膚症状には複数回の強い時期がありました。
2 年後	生活変化	頭痛は年に数回程度となり、口唇症状はみられなくなりました。
記録時点	経過中	膝裏のかゆみと職業に伴う手荒れが残り、治療を継続していました。

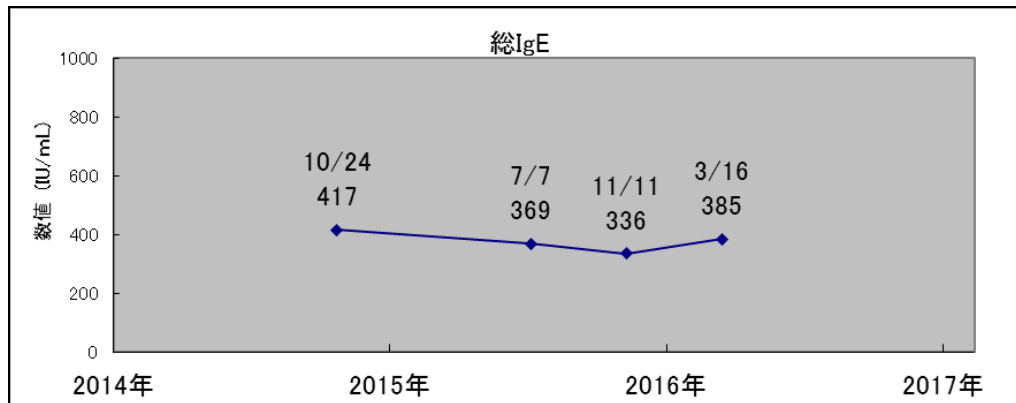
4. ピーク時期

ピークの具体的な時期は不明ですが、治療中に皮膚症状が強く出る時期を複数回経験しました。

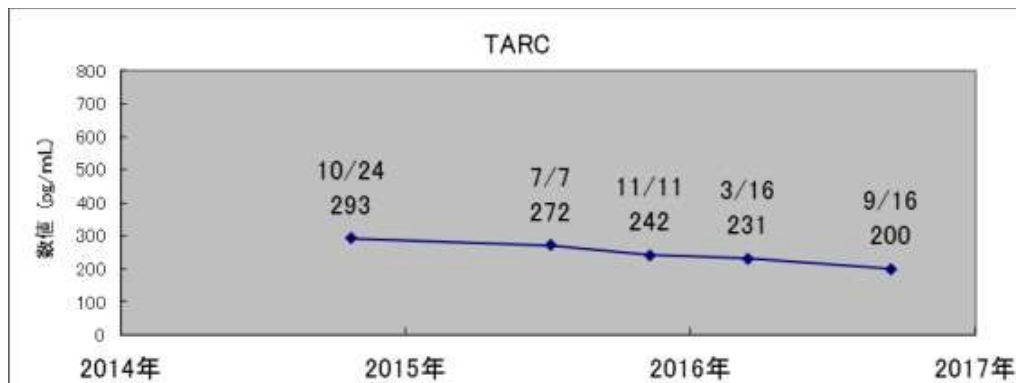
5. 困りごと

- 口唇の症状が続き、外用治療への不安がありました。
- 頭痛が繰り返し起こり、日常生活の負担となっていました。
- 膝裏のかゆみと職業に伴う手荒れが残っていました。

6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。



総 IgE の推移を示すグラフ。



TARC の推移を示すグラフ。

7. 経過のまとめ

治療開始から2年後には、頭痛の頻度は年に数回程度となり、口唇症状もみられなくなりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
 症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。